

チャペルの窓

「時を隔てると」

黒田 朔



ある会社から「クーポン券」が届いた。食事、ゴルフ、ホテルなどで利用できる。よく見ると「沖縄」ばかり、「なんや、あかんわ…いや、久しぶりやし、行って見よか」ということで、冬の関空から2時間半、春の沖縄となった次第。空港に降り立ちその立派さに驚き、モノレール

や快適な高速道路に、20年前にマキキからの宣教師喜友名先生を訪ねた頃のすっきり姿を変えた沖縄に驚く。

しかし、時を隔てても「変わるものと変わらぬもの」がある。北部の観光スポット「古宇利島」をすっかり変えたのは2kmの海を結ぶ夢の橋、打ち上げられたゴミ、外国からの観光客、変わることのないのはやさしい海の色、ゴミを拾う人のやさしさ。そんな中でも、一番変わったのは、現役時代の集会の忙しさは全くなく、ただ二人だけで手をつなぎいたわり合いながら、時を楽しむ私たち自身でした。この豊かな旅をくれた「クーポン券」に感謝する。